

4. 鳥類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第三章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての鳥類相の評価ができるように調査地点以外の場所もふくめたラインセンサス法^{※67}により実施した。そのため、集計は 26 箇所 7 ルートとした。

2) 調査時期・回数および時間

①調査時期

平成 20 年度に「越冬期」、平成 21 年度に「繁殖期・春の渡り期」および「秋の渡り期」の調査を行った。「繁殖期・春の渡り期」は、平成 21 年 4～5 月に、「秋の渡り期」は平成 21 年 9～10 月に行った。この実施状況を表Ⅳ-4-1 に示した。

②調査回数

調査地のうち、特に面積が大きく、生息種の把握に十分な調査時間が必要と考えられる 8 箇所の樹林地については各調査期で 2 回、それ以外の調査地については各調査期で 1 回の現地調査を行った（表Ⅳ-4-2）。

③調査時間

調査実施時間は、一般に繁殖期の小鳥類等については早朝の調査が有効であることから、早朝である 7:00 前後から開始し、午前中に終了するように実施した。

調査に要した時間は、面積の大きな樹林地の場合は 1～4 時間程度、神社や憩いの森程度の小規模な調査地の場合やルート調査の場合は 30 分程度とした。

④補足調査

上記のほかに、補足として、平成 20 年度に行った下見時の記録や、平成 20～22 年度に行った他の分類群の調査時の記録、平成 21～22 年度に実施した自然観察会などで確認した種も含めた。また、上記の実施日以外でも任意の調査で確認した種は記録に加えた。

このほか、都立光が丘公園バードサンクチュアリの開園日の記録も含めた。

※67 ラインセンサス法：あらかじめ設定しておいたセンサスルート上を歩いて、一定の範囲内に出現する鳥類を姿や鳴き声により識別して、種別個体数をカウントする方法。

表Ⅳ－４－１ 鳥類調査 実施日

調査地			調査実施日		
エリア	記号	調査地名	平成21年 越冬期調査	平成21年 繁殖期・春の 渡り期調査	平成21年 秋の渡り期調査
Ⅰ 北町・田柄 エリア	Ⅰ①	都立光が丘公園	1月27日	4月28日	9月16日
			2月10日	5月18日	10月20日
	Ⅰ②	都立城北中央公園	2月6日	4月21日	9月28日
			2月10日	5月12日	10月19日
	Ⅰ③	どんぐり山憩いの森	1月27日	5月18日	9月15日
	Ⅰ④	八幡神社	2月4日	5月14日	9月16日
Ⅰ⑤	U氏邸	1月29日	5月12日	9月17日	
	Ⅰ⑧	高松市民農園	2月4日	5月14日	9月16日
Ⅱ 豊玉・中村 エリア	Ⅱ①	武蔵学園	1月26日	4月27日	9月28日
			2月19日	5月8日	10月17日
	Ⅱ②	豊島園	1月29日	4月23日	9月28日
			2月19日	5月14日	10月19日
	Ⅱ③	廣徳寺・区立高稲荷公園	2月4日	5月12日	9月28日
Ⅱ④	氷川神社	1月26日	5月8日	9月30日	
	Ⅱ⑤	N氏邸	1月26日	5月8日	9月15日
Ⅲ 石神井・関町 エリア	Ⅲ①	都立石神井公園	1月21日	4月24日	9月17日
			2月5日	5月11日	10月15日
	Ⅲ②	区立武蔵関公園	1月20日	4月23日	9月29日
			2月5日	5月15日	10月9日
	Ⅲ③	東京カトリック神学院	1月20日	4月23日	9月26日
	Ⅲ④	天祖若宮八幡宮	1月20日	5月15日	9月29日
Ⅲ⑤	MO氏邸	1月21日	5月11日	9月30日	
	Ⅲ⑥	石泉愛らんど	1月21日	5月11日	9月17日
Ⅳ 大泉・土支田 エリア	Ⅳ①	都立大泉中央公園	1月30日	4月21日	9月15日
			2月17日	5月7日	10月12日
	Ⅳ②	稲荷山・清水山憩いの森	2月10日	4月22日	9月18日
			2月17日	5月12日	10月15日
	Ⅳ③	八の釜憩いの森	2月10日	5月26日	9月14日
	Ⅳ④	土支田八幡宮	1月30日	5月7日	9月18日
	Ⅳ⑤	MU氏邸	1月30日	5月7日	9月18日
	Ⅳ⑥	小作原広場	1月23日	5月21日	9月11日
	Ⅳ⑦	井頭こぶし憩いの森	1月23日	5月20日	9月11日
Ⅳ⑧	区立びくに公園	2月10日	5月26日	9月14日	
	Ⅳ⑨	O氏畑	1月23日	5月21日	9月11日
ルート	R①	練馬駅周辺ルート	2月6日	5月26日	9月22日
	R②	城南住宅ルート	1月29日	5月12日	9月28日
	R③	田柄川緑道ルート	1月27日	5月18日	9月15日
	R④	立野町ルート	1月20日	5月15日	9月29日
	R⑤	土支田・谷原ルート	2月11日	4月22日	9月18日
	R⑥	石神井川流域	1月21日	4月24日	9月19日
	R⑦	白子川流域	1月23日	5月20日	9月11日

表Ⅳ－４－２ 調査回数を２回とした調査地８箇所

エリア	調査地名	面積
Ⅰ 北町・田柄エリア	都立光が丘公園	60.8ha
	都立城北中央公園	25.5ha（区外部分含む）
Ⅱ 豊玉・中村エリア	武蔵学園	7.1ha
	豊島園	30ha
Ⅳ 石神井・関町エリア	都立石神井公園	20.1ha
	区立武蔵関公園	4.6ha
Ⅳ 大泉・土支田エリア	都立大泉中央公園	10.3ha
	稲荷山・清水山憩いの森	2.9ha

3) 調査手法

目視および鳴き声により、個体の確認を行った。8～10倍程度の双眼鏡を補助的に用いた。三宝寺池での水鳥調査も双眼鏡で十分に行えたことから、望遠鏡は使用しなかった。

調査対象地で確認される全ての個体について、その種類、個体数、行動（繁殖、休息、採食など）のほか、判別できる場合は雌雄や成鳥・幼鳥の区別も記録し、地図上にその位置をプロットした。

※調査地付近に石神井川・白子川などが流れている場合、その記録も含めた。

Ⅰ② 都立城北中央公園（石神井川） Ⅱ② 豊島園（石神井川）

Ⅳ② 区立武蔵関公園（石神井川） Ⅳ② 稲荷山・清水山憩いの森（白子川）

Ⅳ⑧ 区立びくに公園（白子川）

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種

①確認種

14目34科99種を確認した(外来種4種を含む)。表IV-4-3に確認種を示した。

アヒル *Anas platyrhynchos var. domesticus* については、マガモを飼育して家禽化したものであるため、総種数には含めない。ただし、マガモが確認されていない調査地で確認した場合は、その調査地の確認種数に含めた。

②重要種

文化財保護法における指定種の確認は無かった。種の保存法における指定種は、オオタカ、ハヤブサ(以上、国内)、コアジサシ(国際)の3種であった。国RLの記載種は、サシバ、ハヤブサ、コアジサシ(以上、絶滅危惧Ⅱ類)、オオタカ、ハイタカ(ともに準絶滅危惧)、オシドリ(情報不足)の6種であった。都RLの記載種は、40種であった。

重要種一覧を表IV-4-4に、確認状況を表IV-4-5に示した。

③外来種

確認種のうち、外来種にあたるのは、ドバト、ワカケホンセイインコ、コクチョウ、インコの一種(種不明)の4種であった。いずれも環境省の定めた特定外来生物や要注意外来生物には該当していない。

表Ⅳ－４－３ 鳥類の確認種一覧 (1/2)

目名	科名	種名	学名	Ⅰ 北町・田柄エリア						Ⅱ 豊玉・中村エリア											
				I ①	I ②	I ③	I ④	I ⑤	I ⑧	Ⅱ ①	Ⅱ ②	Ⅱ ③	Ⅱ ④	Ⅱ ⑤							
				都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸							
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○																	
ペリカン	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	●																	
コウノトリ	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	●																	
		ササゴイ	<i>Butorides striatus</i>	**																	
		ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○																	
		コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	**																	
		アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	●																	
カモ	カモ	オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>																		
		オンドリ	<i>Aix galericulata</i>																		
		マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>																		
		カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	●	●							●	●								
		コガモ	<i>Anas crecca</i>	**									●								
		オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	○																	
		ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	**																	
		オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	●									●								
		ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>																		
		ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>																		
		キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	**																	
		スズガモ	<i>Aythya marila</i>	**																	
		ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	**																	
タカ	タカ	トビ	<i>Milvus lineatus</i>	**													●		●		
		オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	●																	
		ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	○	●							●	●								
		ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	**																	
		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	**																	
		サシバ	<i>Butastur indicus</i>	**																	
		ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	**																
		ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	**																	
	ツル	クイナ	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	**																
			バン	<i>Gallinula chloropus</i>	●																
オオバン			<i>Fulica atra</i>	**																	
チドリ	チドリ	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>																		
		シギ	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	**																
			クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	●																
			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	**																
			ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	●																
	ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>																		
ハト	ハト	カモメ	コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>																	
			キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>																	
		ドバト	<i>Columba livia</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>	**																	
フクロウ	フクロウ	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>					○													
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	●																	
キツツキ	キツツキ	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	**																	
		アオゲラ	<i>Picus awokera</i>									●	○								
		コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
スズメ	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○	●																
	セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	**									●								
		ハクセキレイ	<i>Motacilla lugens</i>	●	●						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	**																	

Ⅲ 石神井・関町エリア						Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							確認箇所数	重要種			外来種
Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		種の保存法	国 R L	都 R L・区部	
都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	M O 氏邸	石泉愛らんど	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	M U 氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	O 氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域					
●	●																					3		NT		
●	●					●														●			5			
●	●																						3			
																							1		CR	
																							1		VU	
●	○																				●	●	5		VU	
●																						●	3			
○																							1			
○																							1		DD	EN
●							●																2			
●	●					●	●	●								●			●		●	●	13			
●	●																				●	●	5			
																							1			
●	●						●														●	●	6			
●																					●		2			
●																							1			
●	●																						3			
																							1			
																							1		*	
																							1		EN	
																							3		NT	
●	●																				●		3	国内	NT	CR
●			●				●																8			CR
																							1		NT	EN
																							1			EN
					●																		1		VU	・
					●										○				○				4			EN
																							1	国内	VU	EN
																							1			DD
●																							2			VU
●													●										2			VU
																							1			VU
																							1			CR
																							1			EN
																							1			VU
○																							2			VU
○																							1			NT
●																							1	国際	VU	EN
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	30			
							●																1			
●	●	●				●		●			●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	24			◆
●																							2			
	●																					●	2		CR	
●	●																						4		VU	
																							1			
●	●																						4			EN
●	●	●	●	●	●	●	●	●				●		●		●		●	●	●	●	●	24			
●	●	●		●	●	●	●				●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	26			
																							3			
	●						●				●		●										8			
●	●	●				●	●			●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	23			
●													●										3			VU

表IV-4-3 鳥類の確認種一覧 (2/2)

目名	科名	種名	学名	I 北町・田柄エリア						II 豊玉・中村エリア											
				I ①	I ②	I ③	I ④	I ⑤	I ⑧	II ①	II ②	II ③	II ④	II ⑤							
				都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸							
スズメ	セキレイ	ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	○																	
		タヒバリ	<i>Anthus spinoletta</i>	**																	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Ixos amaurotis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●	●		●		●	●	●										
	レンジャク	ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	**																	
	ミノサザイ	ミノサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○																	
	ツグミ	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	●							●										
		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	**							●	●	●							●	
		ノビタキ	<i>Saxicola maura</i>	**																	
		トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	●					●												
		アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	**		●									●						
		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	●		●	●	●			●	●			●					●	
		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	●	●	●	●	●	●		●	●	●								
	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	●	●	●			●		●	●	●	●							
		オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	**																	
		エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>										●								
		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	●								●	●								
		ククイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	●																	
	ヒタキ	キビタキ	<i>Ficedula narisina</i>	●		●			●			●	●								
		オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	**					●		●										
		エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	**																	
		コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	**	●																
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	●																	
	エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●																	
	シジュウカラ	ヒガラ	<i>Parus ater</i>																		
		ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	●																	
		シジュウカラ	<i>Parus major</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○																	
		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●								●	●	●	●						
		クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	●																	
		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	●	●						●	●	●							
	アトリ	カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	●	●	●			●		●	●	●	●	●	●					
		マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	**																	
		ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	**																	
		コイカル	<i>Eophona migratoria</i>	○																	
		イカル	<i>Eophona personata</i>	●																	
		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		ハタオリドリ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ムクドリ	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	**																	
		オナガ	<i>Cyanopica cyana</i>	●	●	●	●	●			●		●								
		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	**	●																
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	インコ	インコ	<i>Psittacula krameri manillensis</i>	**	●		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
逸出種		コクチョウ	<i>Cygnus atratus</i>																		
		インコの種類																			
		アヒル	<i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i>								●										
16	37	100		83	24	18	16	18	12	28	30	23	13	14							
										84					36						

●:通常調査での確認 ○:補足調査での確認 **:光が丘公園/パードサンクチュアリでの観察記録
 ※アヒルについては、マガモが確認されていない調査地で確認した場合は、その調査地の確認種数に含めた。

表Ⅳ－４－４ 鳥類の重要種一覧

科名	種名	重要種			Ⅰ 北町・田柄 エリア					Ⅱ 豊玉・中村 エリア			
		種の 保存法	国 R L	都 R L ・ 区 部	I ①	I ②	I ④	I ⑤	I ⑧	Ⅱ ①	Ⅱ ②	Ⅱ ③	Ⅱ ⑤
					都立 光が 丘公 園	都立 城北 中央 公園	八幡 神社	U氏 邸	高松 市民 農園	武蔵 学園	豊島 園	廣徳 寺・ 区立 高稲 荷公 園	N氏 邸
カモメ	コアジサシ	国際	VU	EN									
タカ	オオタカ	国内	NT	CR	●								
ハヤブサ	ハヤブサ	国内	VU	EN	**								
タカ	サシバ		VU	.									
	ハイタカ		NT	EN	**								
カモ	オシドリ		DD	EN									
ヒタキ	コサメビタキ			EX		●							
カササギヒタキ	サンコウチョウ			EX	●								
サギ	ササゴイ			CR	**								
タカ	ツミ			CR	○	●				●	●		
シギ	ツルシギ			CR	**								
フクロウ	アオバズク			CR				○					
カモ	ミコアイサ			EN	**								
タカ	ノスリ			EN	**								
ハヤブサ	チョウゲンボウ			EN	**								
シギ	クサシギ			EN	●								
キツツキ	アオゲラ			EN					●	○			
サギ	ダイサギ			VU	○								
	コサギ			VU	**								
クイナ	バン			VU	●								
	オオバン			VU	**								
チドリ	コチドリ			VU									
シギ	イソシギ			VU	**								
	ヤマシギ			VU	●								
カワセミ	カワセミ			VU	●								
セキレイ	セグロセキレイ			VU									
モズ	モズ			VU	●	●	●		●	●			
ツグミ	トラツグミ			VU	●			●					
ウグイス	オオヨシキリ			VU	**								
シジュウカラ	ヤマガラ			VU	●								
アトリ	ベニマシコ			VU	**								
カイツブリ	カイツブリ			NT	○								
タカ	トビ			NT								●	●
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ			NT									
ホオジロ	クロジ			NT	●								
アトリ	イカル			NT	●								
クイナ	クイナ			DD	**								
カモ	スズガモ			*	**								
ミソサザイ	ミソサザイ			.	○								
エナガ	エナガ			.	●								
		3	6	40	30	3	1	2	1	3	3	1	1
		40			32					4			

●:通常調査での確認 ○:補足調査での確認 **:光が丘公園バードサンクチュアリでの観察記録

Ⅲ 石神井・関町 エリア				Ⅳ 大泉・土支田 エリア									ルート					確認箇 所数
Ⅲ ①	Ⅲ ②	Ⅲ ④	Ⅲ ⑥	Ⅳ ①	Ⅳ ②	Ⅳ ③	Ⅳ ⑤	Ⅳ ⑥	Ⅳ ⑦	Ⅳ ⑧	Ⅳ ⑨	R ①	R ④	R ⑤	R ⑥	R ⑦		
都立石神井公園	区立武蔵関公園	天祖若宮八幡宮	石泉愛らんど	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	MU氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	○氏畑	練馬駅周辺ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域		
●																	1	
●	●																3	
																	1	
			●														1	
	○																1	
																	1	
																	1	
●		●			●									●			8	
																	1	
	●																2	
																	1	
																	1	
				●								○	○				4	
																	1	
●	●																4	
																	1	
●	○														●	●	5	
●																	2	
●																	2	
										●							1	
																	1	
○																	2	
●	●															●	4	
●										●							2	
●			●	●			●	●	●		●		●	●		●	16	
●																	2	
●				○													3	
																	1	
●	●																3	
																	2	
○																	1	
														●			1	
																	2	
																	1	
																	1	
																	1	
●	●			●	●	●			●				●				8	
16	8	1	2	4	2	1	1	1	1	2	2	1	1	4	2	1	3	
19				7									1	4	2	1	3	

重要種凡例

【種の保存法】

国際：国際希少野生動植物種

国内：国内希少野生動植物種

【国RLおよび都RL】

EX：絶滅

CR+EN：絶滅危惧I類

EN：絶滅危惧II類

VU：絶滅危惧III類

NT：準絶滅危惧

DD：情報不足

*：留意種


・：非分布（都RLのみ）

（詳細は第三章を参照）

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (1/8)

<p>コアジサシ(カモメ科) 種の保存法:国際 国RL:絶滅危惧Ⅱ類(VU) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)</p>	
	<p>確認地点:都立石神井公園</p> <p>確認状況:昆虫類調査中(平成21年5月)に、ポート池側で1個体を確認した。</p>
<p>オオタカ(タカ科) 種の保存法:国内 国RL:準絶滅危惧(NT) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠA類(CR)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園</p> <p>確認状況:光が丘公園では、巣立ち直後の幼鳥を平成20年8月に確認した。石神井公園、武蔵関公園では、冬期に確認した。</p>
<p>ハヤブサ(ハヤブサ科) 種の保存法:国内 国RL:絶滅危惧Ⅱ類(VU) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園</p> <p>確認状況:公園に隣接した煙突にとまる個体を確認した。 (光が丘公園バードサンクチュアリ記録)</p>
<p>サシバ(タカ科) 国RL:絶滅危惧Ⅱ類(VU) 都RL(区部):非分布(・)</p>	
	<p>確認地点:石泉愛らんど</p> <p>確認状況:渡り途中と考えられる飛翔中の1個体を確認した。</p>
<p>ハイタカ(タカ科) 国RL:準絶滅危惧(NT) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園</p> <p>確認状況:バードサンクチュアリに飛来した個体を平成23年1、3月に確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)</p>

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (2/8)

<p>オシドリ(カモ科) 国RL:情報不足(DD) 都RL(区部):絶滅危惧 I B類(EN)</p>	
	<p>確認地点: 都立石神井公園 確認状況: 平成22年、石神井公園で1個体を確認した。</p>
<p>コサメビタキ(ヒタキ科) 都RL(区部):絶滅(EX)</p>	
	<p>確認地点: 都立光が丘公園、都立城北中央公園 確認状況: 両調査地ともに、平成21年9月に1個体を確認した。</p>
<p>サンコウチョウ(カササギヒタキ科) 都RL(区部):絶滅(EX)</p>	
	<p>確認地点: 都立光が丘公園 確認状況: 平成21年5月に1個体を確認した。</p>
<p>ササゴイ(サギ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I A類(CR)</p>	
	<p>確認地点: 都立光が丘公園 確認状況: 平成21年8～9月、バードサンクチュアリ内の池で1個体を確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)</p>
<p>ツミ(タカ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I A類(CR)</p>	
	<p>確認地点: 都立光が丘公園、都立城北中央公園、武蔵学園、豊島園、都立石神井公園、天祖若宮八幡宮、稲荷山憩いの森、土支田・谷原ルート 確認状況: 各調査地点では1個体ずつの確認であったが、都立石神井公園では、営巣を確認した。土支田・谷原ルートでは、上空を飛翔中の個体であった。</p>

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (3/8)

ツルシギ(シギ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠA類(CR)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年9月、バードサンクチュアリ内の池で1個体を確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
アオバズク(フクロウ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠA類(CR)	
	確認地点:U氏邸、都立石神井公園、区立武蔵関公園 確認状況:U氏邸では、平成22年に1羽の声のみの確認であった。石神井公園では、平成22、23年ともに、7月に声を確認した。武蔵関公園では、平成21年9月、「松の島」で1個体を確認した。
ミコアイサ(カモ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成23年1月にバードサンクチュアリ内の池で1個体を確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
ノスリ(タカ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年1月、バードサンクチュアリ内で1個体を確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
チョウゲンボウ(ハヤブサ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立大泉中央公園、練馬駅周辺ルート、立野町ルート 確認状況:各調査地点で1個体ずつを確認した。なお、光が丘公園での記録は、光が丘公園バードサンクチュアリの観察記録である。

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (4/8)

クサシギ(シギ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年9月、バードサンクチュアリ内の池で2個体を確認した。
アオゲラ(キツツキ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:武蔵学園、豊島園、都立石神井公園、区立武蔵関公園 確認状況:武蔵関公園では平成20年8月の下見時に、武蔵学園では平成21年5月に、それぞれ1個体を確認した。石神井公園では、平成20年8月に確認した。なお、豊島園では、敷地内のスタッフの方からの情報である。
ダイサギ(サギ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成22年9月、光が丘公園バードサンクチュアリ脇の鑑賞池で1羽を確認した。
コサギ(サギ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、石神井川流域、白子川流域 確認状況:いずれも1個体を確認した。
バン(クイナ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立石神井公園 確認状況:石神井公園では、三宝寺池・石神井池ともに確認した。石神井池では営巣し、幼鳥も確認した。

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (5/8)

<p>オオバン(クイナ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園</p> <p>確認状況:石神井公園では、石神井池で冬期に1個体を確認した。都立光が丘公園では平成20年10月に確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)</p>
<p>コチドリ(チドリ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:区立びくに公園</p> <p>確認状況:びくに公園では、飛翔中の個体や、隣接する白子川の河床にいる1個体を確認した。</p>
<p>イソシギ(シギ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園</p> <p>確認状況:光が丘公園では平成22年9月にバードサンクチュアリで確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)</p>
<p>ヤマシギ(シギ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園</p> <p>確認状況:光が丘公園で平成21年1月にバードサンクチュアリ内の樹林で、石神井公園では平成21年3月に水辺観察園付近で確認された。</p>
<p>カワセミ(カワセミ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、白子川流域</p> <p>確認状況:光が丘公園や武蔵関公園では、周年観察され、平成21年には繁殖したと考えられる。石神井公園でもその可能性が示唆される。</p>

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (6/8)

<p>セグロセキレイ(セキレイ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立石神井公園、区立びくに公園</p> <p>確認状況:石神井公園では、冬期に、びくに公園では平成20年8月、平成21年2月に隣接する白子川河床で、それぞれ1羽ずつ確認した。</p>
<p>モズ(モズ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立城北中央公園、高松市民農園など16箇所</p> <p>確認状況:主に冬期(平成21年1～2月)および秋期(平成21年10月)に確認し、繁殖期(平成21年4～5月)には確認しなかった。</p>
<p>トラツグミ(ツグミ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、U氏邸</p> <p>確認状況:両調査地ともに、平成21年1月に1羽を確認した。</p>
<p>オオヨシキリ(ウグイス科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園</p> <p>確認状況:都立光が丘公園では平成21年4月に確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録) 都立石神井公園では、平成21年4月に、渡りの途中と考えられる1個体を、三宝寺池で確認した。</p>
<p>ヤマガラ(シジュウカラ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、都立大泉中央公園</p> <p>確認状況:光が丘公園、石神井公園では、平成21年1月に、大泉中央公園では、平成21年10月に確認した。</p>

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (7/8)

ベニマシコ(アトリ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:光が丘公園バードサンクチュアリで平成22年11月に確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
カイツブリ(カイツブリ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園 確認状況:石神井公園、武蔵関公園では周年生息しており、繁殖も確認した。光が丘公園では、バードサンクチュアリで平成22年3月の任意調査時に確認した。
トビ(タカ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:廣徳寺、N氏邸 確認状況:N氏邸では、平成21年1月に廣徳寺では、平成21年5月に上空高く飛翔する1羽を確認した。
アカエリヒレアシシギ(ヒレアシシギ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
写真無し	確認地点:都立石神井公園 確認状況:平成21年9月、移動途中と考えられる1個体を確認した。
クロジ(ホオジロ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年4月、1個体を確認した。

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (8/8)

イカル(アトリ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(N _T)	
	確認地点:都立光が丘公園、立野町ルート 確認状況:両調査地ともに、平成21年1月に確認した。
クイナ(クイナ科) 都RL(区部):情報不足(D _D)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年1～2月に確認した。 (光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
スズガモ(カモ科) 都RL(区部):留意種(*)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成22年10月、バードサンクチュアリの池で1個体を確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
ミソサザイ(ミソサザイ科) 都RL(区部):非分布(・)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年3月、1個体を確認した。
エナガ(エナガ科) 都RL(区部):非分布(・)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園など8箇所 確認状況:主に冬期に確認したが、稲荷山憩いの森では巣を確認し、光が丘公園では巣立ち雛を確認した。区立武蔵関公園、井頭憩いの森では、平成21年5月中旬に、都立大泉中央公園では平成22年6月に確認し、繁殖の可能性がある。

2) 各種の渡り区分

本調査で確認した 99 種について、その渡り区分（留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥・迷鳥 ※68～※72 および情報不足の種）を整理した（表Ⅳ－4－6）。

冬鳥が全体の 4 割以上を占めており、ついで留鳥、旅鳥と続いた。冬鳥や旅鳥については、数の少ない種、稀な種なども含まれ年によって幅が大きい。そのため、種数の扱いには注意が必要である。一方で、留鳥については、年によっての変動は少ないが、もう少し長い期間（10～20 年程度）では、変化があると考えられる。

表Ⅳ－4－6 確認した鳥類の渡り区分

区分	該当種
留鳥 (25 種)	カイツブリ、カルガモ、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ツミ、バン、キジバト、ドバト、カワセミ、アオゲラ（少ない）、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ（少ない）、ヒヨドリ、エナガ（少ない）、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス（少ない）、ハシブトガラス、ワカケホンセイインコ
夏鳥 (3 種)	ツバメ、イワツバメ、アオバズク
冬鳥 (43 種)	コサギ、マガモ、コガモ、オカヨシガモ（少ない）、ヒドリガモ（少ない）、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ（少ない）、トビ（少ない）、オオタカ（一部留鳥）、ハイタカ（少ない）、ノスリ（少ない）、チョウゲンボウ、ハヤブサ（少ない）、クイナ（少ない）、オオバン（少ない）、ヤマシギ（少ない）、キセキレイ（一部留鳥か？）、ビンズイ（少ない）、タヒバリ（少ない）、モズ、ミソサザイ（少ない）、ヒレンジャク（稀）、ルリビタキ、ジョウビタキ、トラツグミ（少ない）、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、キクイタダキ（少ない）、ヤマガラ、ホオジロ（少ない）、アオジ、クロジ（少ない）、アトリ（稀）、マヒワ（稀）、ベニマシコ（稀）、イカル、シメ、カケス（少ない）
旅鳥 (18 種)	ササゴイ、サシバ、コチドリ、イソシギ、ツルシギ、クサシギ、コアジサシ、ツツドリ、コマドリ、ノビタキ、オオヨシキリ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エゾビタキ、サンコウチョウ
迷鳥 (8 種)	オオハクチョウ、コクチョウ、オシドリ、スズガモ、アカエリヒレアシシギ、アオバト、ヒガラ、コイカル
情報不足 (2 種)	ダイサギ、アリスイ
計 99 種	

※68 留鳥：ある地域で 1 年中見られる鳥。

※69 夏鳥：春に南の地域から渡って来て繁殖し、秋には南の地域に飛去する鳥で、日本には春から秋までいる。

※70 冬鳥：春から夏にかけて北の地域で繁殖して、秋に日本に渡来して越冬し、春には北へ帰る鳥

※71 旅鳥：日本より北で繁殖し、日本より南で越冬する鳥。

※72 迷鳥：台風やほかの鳥の群れに入る等、何らかの事故で、本来の渡りのコースや分布域からはずれて渡来した鳥。

①留鳥（25種）

いわゆる都市鳥と呼ばれる種が多いが、いくつか注目される種が含まれる。ツミヤエナガは、近年生息範囲を拡大している種であると考えられる。一方で、セグロセキレイは、近年減少傾向にあると考えられる。アオゲラは、以前から区内の繁殖は確認されているが、23区内での繁殖は希少であり、今後も注目されるべき記録である。

②夏鳥（3種）

ツバメとイワツバメ、アオバズクが該当すると考えられる。

ツバメは、調査対象地に限らず、区内各所で生息している。イワツバメは、石神井川流域と城北中央公園周辺で確認されており、周辺のどこかで繁殖している可能性がある。

アオバズクは、石神井公園や U 氏邸で夏期に確認されており、個体数は少ないが夏鳥に該当すると考えられる。

③冬鳥（43種）

渡り区分ではもっとも多くを占める。これは、都市地域での一般的な特徴である。構成種については、飛来数の多い種、飛来数の少ない種、毎年飛来するわけではない種（「稀」と表示）、一部では繁殖している種など、より細かく分けることが出来る。

④旅鳥（18種）

一般的に春と秋の渡り時期にのみ飛来（通過）する種を抽出した。

ヒタキ科、ウグイス科の種が多く、シギ・チドリ類も3種、カッコウ目も含まれる。

⑤迷鳥（8種）

オオハクチョウやスズガモ、アカエリヒレアシシギなどのいわゆる水鳥が多いが、アオバトやヒガラ、コイカルなどの陸鳥も記録した。アオバトは飛翔力が強いことから、本来の生息地から離れた場所で確認されることがある。ヒガラは、数の少ない冬鳥として飛来している可能性がある。コイカルについては、平成 21～22 年の冬にイカルが大群で飛来した際に混じていた個体である。

⑥情報不足の種（2種）

ダイサギとアリスイの2種を選定した。

ダイサギは、冬鳥あるいは留鳥の可能性もあるが、確認件数が非常に少なく、生息数も少ないと考えられる。都市地域では、減少傾向にある可能性がある。

アリスイについても、渡り途中に立ち寄る「旅鳥」か、数の少ない「冬鳥」の可能性はあるが、今回の記録では十分に検討が出来なかった。

3) 繁殖状況

①繁殖を確認した種および繁殖の可能性があった種

現地調査中に繁殖が確認できた種および繁殖の可能性があった種について、日本野鳥の会(1978)による繁殖可能性の区分(a～b)を参考に判定した。

ランク a : 繁殖を確認した
 ランク b : 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある

判定の区分とその判定項目を表Ⅳ-4-7に、判定結果を表Ⅳ-4-8にまとめた。主に平成21年に確認できたものであるが、平成20年度に実施した下見時、平成22～23年度に実施した区民アンケート調査での記録も含めた。

表Ⅳ-4-7 繁殖可能性の区分およびその判定項目

ランク	観察対象	観察事項
a	成鳥について	成鳥が巣あるいは巣のあるらしい所にくりかえし出入りしている。
		成鳥が抱卵又は抱雛している。あるいはしているようだ。
		成鳥が巣のあるらしい所にとびこむと同時にヒナの乞餌声がきかれた。
		成鳥がヒナのフンを運搬している。
		擬傷をみた。
	巣について	巣立ち後の巣がある。
	卵について	卵のある巣をみた。
		成鳥がおちついてすわっている巣の近くで、その種の卵殻が見つかった。
	ヒナについて	ヒナのいる巣をみた。
		ヒナの声聞いた。
巣立ちヒナについて	巣からほとんど移動していないと思われる巣立ちヒナをみた。	
b	成鳥について	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種の囀り(キツツキ類のドラミングを含める)を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。
		求愛行動をみた。ただし、その鳥が、冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。
		交尾行動をみた。ただし、その鳥が、冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。
		威嚇行動、警戒行動により、付近に巣又はヒナの存在が考えられる。
		巣があると思われる所に成鳥が訪れた。ただし、そこが塹である場合は除く。
		造巣行動(巣穴掘りを含む)を見た。
		成鳥が巣材を運搬している。ただし、明らかに付近に巣を構えていると思われる場合に限る。
		成鳥がヒナへの餌を運搬しているが、巣が周辺にあるかどうかわからない。
	巣について	巣を発見したが、卵、ヒナともなく、成鳥がそこに来るのを認めなかった。
	巣立ちヒナについて	かなり移動可能と思われる巣立ちヒナを見た。家族群を見た。

表IV-4-8 繁殖を確認した種 (a) およびその可能性があった種 (b)

No.	種名	確認概要	ランク
1	カイツブリ	幼鳥 (区立武蔵関公園 H21. 5. 15) 幼鳥 (都立石神井公園 H21. 5. 19)	a
2	カルガモ	巣立ち雛を確認 (石神井川流域 H21. 7. 27)	
3	オオタカ	巣、巣立ち雛を確認 (※本種は種の保存法でも指定されている種であるため、繁殖場所は示さずに、繁殖を確認したことのみ記載する)	
4	バン	営巣および成長した幼鳥を確認 (都立石神井公園 H22. 7)	
5	アオゲラ	営巣を確認 (大泉学園町 H22)	
6	ツバメ	巣を確認 (土支田・谷原ルート H21. 4. 22)	
7	エナガ	巣立ち雛連れ (都立光が丘公園 H21. 5. 18) 巣 (稲荷山憩いの森 H21. 4. 22)	
8	シジュウカラ	巣立ち雛 (白子川流域 H21. 5. 20) 巣立ち雛 (都立石神井公園 H21. 5. 11) 巣材をくわえる (城南住宅ルート H21. 5. 12) 巣立ち雛の声 (清水山憩いの森 H21. 5. 13) 巣立ち雛の声 (豊島園 H21. 5. 14) 利用している巣穴確認 (区立武蔵関公園 H21. 5. 15) 巣立ち雛の声 (都立光が丘公園 H21. 5. 18、H21. 6. 9) 巣立ち雛の声 (武蔵学園 H21. 5. 25) 巣立ち雛の声 (都立大泉中央公園 H21. 6. 17)	
9	ムクドリ	巣材をくわえる (武蔵学園 H21. 4. 27) 餌をくわえる (区立高稲荷公園 H21. 5. 12) 巣を確認 (立野町ルート H21. 5. 15)	
10	ハシブトガラス	巣材をくわえる (都立大泉中央公園 H21. 4. 21) 抱卵中 (八幡神社 H21. 5. 14)	
11	ツミ	巣を確認 (都立石神井公園 H21)	b
12	アオバズク	大木のある林内で囀りを確認 (都立石神井公園 H22. 7)	
13	カワセミ	求愛給餌を確認 (都立光が丘公園バードサンクチュアリ H22. 3)	
14	コゲラ	巣立ち雛に給餌 (区立武蔵関公園 H21. 5. 15) 巣立ち雛に給餌か? (立野町ルート H21. 5. 15)	
15	キセキレイ	巣材を運ぶ姿を確認 (豊島園の石神井川 H21. 5. 14)	
16	メジロ	巣立ち雛 (立野町ルート H21. 5. 15)	
17	ハシボソガラス	巣立ちピナ (区立武蔵関公園 H21. 5. 15)	
	17 種		

※繁殖可能性の区分は、日本野鳥の会 (1978) によった。

a : 繁殖を確認した。 b : 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある

確認種のうち、繁殖を確認した種（ランク a）が 10 種、繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある種（ランク b）が 7 種であった。

ランク a のアオゲラについては、「区民アンケート調査」で営巣が報告された。

ランク b のキセキレイについては、豊島園の石神井川河床で巣材を運ぶ姿を確認した。本種は、本来は河川のより上流部で繁殖すると考えられ、区内で繁殖していたとすれば貴重な記録となる。今後の動向が注目される。

なお、表には示さなかったが、キジバト、ドバト、イワツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、カワラヒワ、オナガ、スズメ、ワカケホンセイインコの 7 種については、繁殖期に多くの個体の生息が確認されていることから、区内で繁殖したと考えられる。

ウグイスについては、本来冬期に観察されるが、平成 21 年に都立光が丘公園の水生昆虫誘致池周辺で 5 月下旬まで確認した。周辺には本種が好む藪状の環境もあり、繁殖した可能性があると考えた。

②今後の繁殖を注目すべき種

カワウについては、区内でほぼ周年観察された。都立石神井公園の三宝寺池では、ハンノキ林で休息する個体を確認されているが、これらがそのまま定着し、繁殖する可能性がある。その場合、糞により樹木が枯死する可能性があるため、天然記念物となっている植物群落への影響も懸念される。

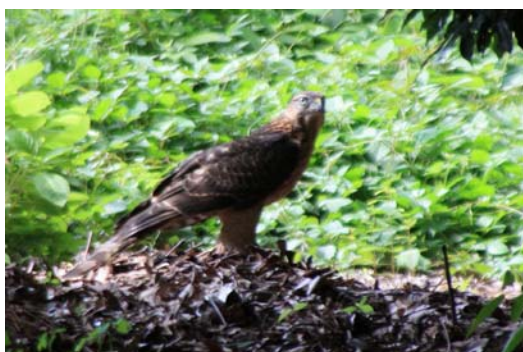
繁殖を確認した鳥類の関連写真



カイツブリの巣(区立武蔵関公園)



カルガモの親子(石神井川流域)



オオタカの巣立ち直後の幼鳥(都立光が丘公園)



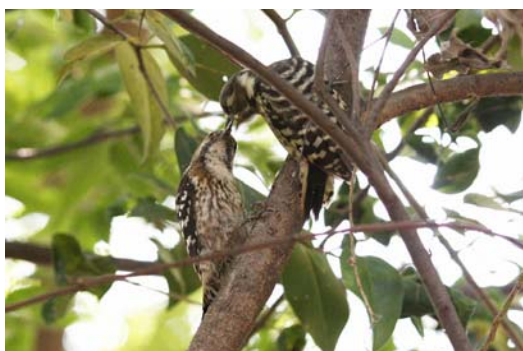
雛に給餌をするバン(都立石神井公園)



カワセミの人工営巣壁(区立武蔵関公園)



カワセミの求愛給餌(都立石神井公園)



巣立ち雛へ給餌するコゲラ(区立武蔵関公園)



巣材をくわえるキセキレイ(豊島園)

4) 重要種の保全

種の保存法に記載、あるいは都 RL の絶滅危惧 I 類以上であり、かつ、区内に生息し、繁殖していると考えられる 4 種を対象に考察する。

①オオタカ（国内希少野生動物種・絶滅危惧 I A 類 CR）

都立光が丘公園や都立石神井公園、区立武蔵関公園で冬期に観察した。確認した場所が、都立公園や区立公園であることから、生息する空間は確保されていると考えられる。しかし、繁殖するためのまとまった大径木（特に本種が好むアカマツ）が少ないことや、公園利用者との距離が十分に保てないことなどの問題はある。また、繁殖場所へカメラマンなどが集まることによる繁殖妨害については、今後、公園管理者や観察者との調整なども検討すべきと考える。

②アオゲラ（絶滅危惧 I B 類 EN）

都立石神井公園で繁殖の可能性があるほか、他の比較的大きな緑地でも観察した。確認した場所が、都立公園や区立公園、大学などであることから、生息する空間は確保されている。また、区内の他の地点でも繁殖している情報があることから、区内に定着している可能性がある。

③ツミ（絶滅危惧 I A 類 CR）

都立石神井公園で生息しているほか、他の比較的大きな緑地でも観察した。近年増加傾向にあると考えられることや、確認した場所の多くが、都立公園として確保されていることから、喫緊な保全対策の必要はないと考えられる。

④アオバズク（絶滅危惧 I A 類 CR）

U 氏邸で繁殖した可能性があるほか、都立石神井公園でも夏期の生息を確認した。本種の保全には、営巣するための「うろ」をもった巨木を含む樹林が必要である。また、その餌となる大型のガ類やコウチュウ類などが生息することも条件となる。

生息に適した屋敷林などがある場合には、巣箱の設置なども有効と考える。

5) 各調査地点のまとめ

I 北町・田柄エリア

I ① 都立光が丘公園

- ・確認種：83種
- ・重要種：種の保存法：オオタカ（国内）、ハヤブサ（国内）
国 RL：オオタカ（NT）、ハイタカ（NT）、ハヤブサ（VU）
都 RL：カイツブリ（NT）、ササゴイ（CR）、ダイサギ（VU）、コサギ（VU）、スズガモ（*）、ミコアイサ（EN）、トビ（NT）、オオタカ（CR）、ツミ（CR）、ハイタカ（EN）、ノスリ（EN）、チョウゲンボウ（EN）、ハヤブサ（EN）、クイナ（DD）、バン（VU）、オオバン（VU）、ツルシギ（CR）、クサシギ（EN）、イソシギ（VU）、ヤマシギ（VU）、カワセミ（VU）、セグロセキレイ（VU）、モズ（VU）、ミソサザイ（・）、トラツグミ（VU）、オオヨシキリ（VU）、コサメビタキ（EX）、サンコウチョウ（EX）、エナガ（・）、ヤマガラ（VU）、クロジ（NT）、ベニマシコ（VU）、イカル（NT）
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

公園全体で 83 種を確認し、調査地の中では最大種数であった。このうち 34 種はバードサンクチュアリでの観察記録、9 種は補足調査での記録である。

自然保全ゾーンとそれに連続する樹林地では、オオタカを確認したほか、渡り途中の小鳥類も多く、センダイムシクイ、キビタキ、エゾビタキ、サンコウチョウなども確認した。冬期には、ミソサザイ、ルリビタキ、アトリ、クロジなどのまとまった樹林を好む種も確認した。

バードサンクチュアリでは、サギ類、カモ類、クイナ類、カワセミなどの水鳥のほか、淡水性のシギ類としてツルシギ、クサシギ、イソシギを確認した。これらのシギ類については、いずれも光が丘公園のみでの記録である。また、サンクチュアリ周辺の樹林内でもヤマシギやトラツグミなどの樹林性の種を確認した。

I ② 都立城北中央公園

- ・確認種：24種
- ・重要種：都 RL：ツミ（CR）、モズ（VU）、コサメビタキ（EX）
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、冬期にはウグイスのような、暗くややまとまった樹林を好む種を確認した。また、秋期には渡り途中のコサメビタキが、繁殖期にかかる 4 月下旬にはツミを確認している。いずれも樹林性の鳥類であり、草地性の種としては、林縁性のモズを確認した程度であった。

I ③ どんぐり山憩いの森

- ・確認種：18 種
- ・重要種：なし
- ・外来種：ドバト

いわゆる都市鳥が多いが、冬期にはアカハラやシロハラ、ウグイスのような、暗くややまとまった樹林を好む種を確認した。秋期には渡り途中のキビタキも確認した。

I ④ 八幡神社

- ・確認種：16 種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、林縁性のモズや、シロハラのような暗くややまとまった樹林を好む種を記録した。

I ⑤ U 氏邸

- ・確認種：18 種
- ・重要種：都 RL：アオバズク (CR)、トラツグミ (VU) の 2 種
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、冬期には、トラツグミやシロハラのようなややまとまった樹林を好む種が記録されている。春期には渡り途中のキビタキやオオルリもヒアリングなどにより確認している。

なお、区民アンケートや平成 23 年度の任意調査で、アオバズクの生息を確認し、繁殖の可能性もある。

I ⑧ 高松市民農園

- ・確認種：12 種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、林縁性のモズが記録されている。

II 豊玉・中村エリア

II① 武蔵学園

- ・確認種：28 種
- ・重要種：都 RL：ツミ (CR)、アオゲラ (EN)、モズ (VU)
- ・外来種：ドバト

樹林環境としては、渡り途中のセンダイムシクイやオオルリを確認した。まとまった樹林を好むツミやアオゲラもそれぞれ 1 回のみの記録で、移動の途中と考えられるものの確認されている。冬期には、アオジやシロハラ、ルリビタキ、アトリなど、ややまとまった樹林を好む種が記録されている。鳥類にとっては区内で重要な生息空間のひとつになっていると考えられる。

II② 豊島園

- ・確認種：30 種
- ・重要種：都 RL：ツミ (CR)、アオゲラ (EN)、モズ (VU)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

樹林環境としては、「庭の湯」および「石神井川沿い斜面林」を中心として渡り途中のエゾムシクイやセンダイムシクイ、キビタキを確認したほか、まとまった樹林を好むツミやアオゲラ（現地職員からのヒアリング）も確認されている。冬期には、アオジやシロハラなど、暗くややまとまった樹林を好む種が記録されている。以上のことから、鳥類にとっては区内で重要な生息空間のひとつになっていると考えられる。

水辺環境としては、石神井川でキセキレイの繁殖行動を確認したほか、カルガモ、コガモ、オナガガモも確認した。

II③ 廣徳寺・区立高稲荷神社

- ・確認種：23 種
- ・重要種：都 RL：トビ (NT)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、廣徳寺内では秋期に、渡り途中のキビタキを確認した。また、冬期にはアオジやアカハラ、アトリなど、ややまとまった樹林を好む種が記録されている。なお、上空でトビを確認したが、当敷地内の環境との結びつきはないものと考えられる。

II④ 氷川神社

- ・確認種：13 種
- ・重要種：なし
- ・外来種：ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、アオジやシロハラ、ウグイスなど、暗くややまとまった樹林を好む種が記録されている。

II⑤ N氏邸

- ・確認種：14種
- ・重要種：都 RL：トビ（NT）
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、アオジやシロハラ、ウグイスなど、暗くややまとまった樹林を好む種が記録されている。

なお、上空でトビを確認したが、当敷地内の環境との直接の結びつきはないものと考えられる。

Ⅲ 石神井・関町エリア

Ⅲ① 都立石神井公園

- ・確認種：53 種
- ・重要種：種の保存法：オオタカ（国内）、コアジサシ（国際）
国 RL：オシドリ（DD）、オオタカ（NT）、コアジサシ（VU）
都 RL：カイツブリ（NT）、コサギ（VU）、オシドリ（EN）、オオタカ（CR）、ツミ（CR）、バン（VU）、オオバン（VU）、ヤマシギ（VU）、アカエリヒレアシシギ（NT）、コアジサシ（EN）、アオバズク（CR）、カワセミ（VU）、アオゲラ（EN）、セグロセキレイ（VU）、モズ（VU）、オオヨシキリ（VU）、エナガ（・）、ヤマガラ（VU）
- ・外来種：コクチョウ、ドバト、ワカケホンセイインコ

公園全体で 75 種が確認され、種数では都立光が丘公園に次ぐ 2 番目であった。

樹林環境としては、まとまった樹林を選好するオオタカ、ツミ、アオゲラが留鳥として、ルリビタキ、シロハラが冬鳥として生息し、春や秋の渡り時期には、ツツドリ、オオヨシキリ、センダイムシクイなどの小鳥類を確認した。また、平成 22～23 年の夏期にはアオバズクの声が確認され、生息・繁殖の可能性が示唆された。

水辺環境としては、サギ類、カモ類、クイナ類などを確認したほか、オオハクチョウ、コアジサシ、アカエリヒレアシシギといった移動途中の個体も区内で唯一確認した。また、カイツブリやバンについては、雛の姿を確認しており、繁殖していると考えられる。

Ⅲ② 区立武蔵関公園

- ・確認種：38 種
- ・重要種：種の保存法：オオタカ（国内）
国 RL：オオタカ（NT）
都 RL：カイツブリ（NT）、コサギ（VU）、オオタカ（CR）、アオバズク（CR）、カワセミ（VU）、アオゲラ（EN）、エナガ（・）
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

樹林環境としては、渡り途中のアオバズクやセンダイムシクイを確認したほか、冬期には葦の島でオオタカを、補足調査では、アオゲラも確認され、鳥類にとっては区内で重要な生息空間になっていると考えられる。特に、富士見池に設置された「松の島」「葦の島」は、人の立ち入りが出来ないことから、鳥類にとっての保護区（サンクチュアリ）になっていると考えられる。

水辺環境としては、カイツブリやカワウ、コサギ・ゴイサギといったサギ類、カワセミ、キセキレイなどのいわゆる水鳥を確認した。なお、カイツブリについては、営巣も確認した。

Ⅲ③ 東京カトリック神学院

- ・確認種：20 種
- ・重要種：なし
- ・外来種：ドバト

いわゆる都市鳥が多いが、春期に樹林内で渡り途中のキビタキを確認した。冬期には、アオジやシロハラ、アトリなど、ややまとまった樹林を好む種を記録した。

Ⅲ④ 天祖若宮八幡宮

- ・確認種：10 種
- ・重要種：都 RL：ツミ (CR)
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥が多く、確認種数も少ないが、冬期にツミを確認した。シロハラのような、ややまとまった暗い樹林を好む種も記録されている。

Ⅲ⑤ MO氏邸

- ・確認種：13 種
- ・重要種：なし
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥が多いが、シロハラやウグイスのような、ややまとまった暗い樹林を好む種を記録した。

Ⅲ⑥ 石泉愛らんど

- ・確認種：18 種
- ・重要種：国 RL：サシバ (VU)
都 RL：サシバ (・)、モズ (VU)
- ・外来種：ワカケホンセイインコ

やや種数が多いが、畑地と屋敷林という異なる環境が含まれているためと考えられる。

いわゆる都市鳥が多いが、平成 21 年 9 月に渡り途中のサシバを確認した。本種については、上空高くの通過であり、当地の環境との直接の関係はないものと考えられる。

冬期にはモズを、同年 9 月には渡り途中のキビタキを屋敷林部分で確認した。また、シロハラやウグイスのような、暗くややまとまった樹林を好む種も記録した。

IV 大泉・土支田エリア

IV① 都立大泉中央公園

- ・確認種：28 種
- ・重要種：都 RL：チョウゲンボウ (EN)、モズ (VU)、エナガ (・)、ヤマガラ (VU)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥のほかに、チョウゲンボウやモズのようにやや開けた空間を好み、上位捕食者である種を確認した。また、ルリビタキやアオジのような、ややまとまった樹林を好む種を記録した。さらに、渡り途中のセンダイムシクイを確認した。

IV② 稲荷山・清水山憩いの森

- ・確認種：25 種
- ・重要種：都 RL：ツミ (CR)、エナガ (・)
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥が多いが、この中には樹林のわきを流れる白子川にいるマガモやオナガガモも含まれている。シロハラやアオジのような、ややまとまった樹林を好む種も記録されている。また、繁殖期にあたる 4 月下旬に、ツミを確認した。また、エナガの営巣を確認した。平成 21 年 6 月には、移動途中と考えられるアオバトも確認した。

IV③ 八の釜憩いの森

- ・確認種：15 種
- ・重要種：都 RL：エナガ (・)
- ・外来種：ドバト

いわゆる都市鳥が多いが、敷地内の池でカルガモを、樹林でエナガを確認した。

IV④ 土支田八幡宮

- ・確認種：9 種
- ・重要種：なし
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥が多い。シロハラのような、暗くややまとまった樹林を好む種を確認した。

IV⑤ MU 氏邸

- ・確認種：14 種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥が多いが、周辺の畑地などの開けた空間で、モズやキセキレイを、樹林ではシロハラを確認した。

IV⑥ 小作原広場

- ・確認種：13種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)
- ・外来種：ドバト

いわゆる都市鳥が多く、開けた環境を好むツグミやムクドリ、カワラヒワなどを確認したほか、敷地周縁の樹木には、シジュウカラやメジロ、オナガなども飛来した。さらに、周辺の畑地などの開けた空間でモズも確認した。

IV⑦ 井頭こぶし憩いの森

- ・確認種：17種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)、エナガ (・)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

やや種数が多いのは、主要な調査対象である草地部分と隣接する樹林部分という異なる二つの環境が隣接しているためと考えられる。

いわゆる都市鳥が多いが、やや開けた樹林内でモズを、樹林ではエナガを確認した。

IV⑧ 区立びくに公園

- ・確認種：15種
- ・重要種：都 RL：コチドリ (VU)、セグロセキレイ (VU)
- ・外来種：ドバト

区内で唯一コチドリを確認した。白子川の河床で確認したが、本種の生態から、公園内の開けた草地も含めた環境を利用していると考えられる。また、セグロセキレイも白子川で確認したが、区内の他の地点では石神井公園でのみの確認であり、白子川との組み合わせがこれら区内では希少な種にとっての生息環境になっていると考えられる。

IV⑨ O氏畑

- ・確認種：17種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)
- ・外来種：ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、開けた環境を好むモズやジョウビタキ、ツグミ、カワラヒワなどを確認したほか、藪を好むアオジも確認した。

ルートおよび流域

R① 練馬駅周辺ルート

- ・確認種：6種
- ・重要種：都 RL：チョウゲンボウ (EN)
- ・外来種：ドバト

いわゆる都市鳥がほとんどであったが、チョウゲンボウを確認した。高層ビルが立ち並ぶ環境が、本種の休息場所として好まれたと考えられる。

R② 城南住宅ルート

- ・確認種：15種
- ・重要種：なし
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ、インコ的一种

いわゆる都市鳥がほとんどであったが、コゲラやウグイスやシメが含まれていた。また、石神井川が近いことから、上空でカルガモを確認した。

R③ 田柄川緑道ルート

- ・確認種：10種
- ・重要種：なし
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥がほとんどであった。緑道の緑量(=ボリューム)が乏しいことが原因と考えられる。

R④ 立野町ルート

- ・確認種：27種
- ・重要種：都 RL：チョウゲンボウ (EN)、モズ (VU)、エナガ (・)、イカル (NT)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

27種という確認種数は、武蔵学園や都立大泉中央公園など大規模な緑地と並ぶ種数である。コース途中にある区立立野公園や屋敷林などが鳥類の生息地として利用されていると考えられる。

いわゆる都市鳥のほかに、上位捕食者のチョウゲンボウやモズ、渡り途中のセンダイムシクイ、樹林性のシロハラ、エナガ、イカルなども確認した。

R⑤ 土支田・谷原ルート

- ・確認種：21 種
- ・重要種：都 RL：ツミ (CR)、モズ (VU)
- ・外来種：ドバト

カワウ、ツミが上空を通過した。ただし、両種ともに確認した高度が高く、地上部分との関係性は低いと考えられる。

渡り途中のセンダイムシクイや、ウグイスも確認した。

R⑥ 石神井川流域

- ・確認種：21 種
- ・重要種：都 RL：コサギ (VU)
- ・外来種：ドバト

コサギ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キセキレイを確認し、カルガモについては繁殖も確認した。また、上空ではイワツバメを確認した。イワツバメについては、周辺で繁殖している可能性がある。

R⑦ 白子川流域

- ・確認種：17 種
- ・重要種：都 RL：コサギ (VU)、カワセミ (VU)、モズ (VU)
- ・外来種：ドバト

コサギ、アオサギ、カルガモ、カワセミ、キセキレイを確認した。また、モズが河床内に降りて採餌をしていた。確認した各種は、河川沿いなどで一般的な種であるが、石神井川と比較して魚食性のアオサギやカワセミが確認されていることから、小型の魚類がより豊富に生息していると考えられる。

6) 練馬区の鳥類相の特徴

①樹林性の種が生息する

オオタカ、ツミ、アオバズクといったいわゆる猛禽類（＝上位捕食者）が生息・繁殖していることがひとつの特徴である。

ツミは 1980 年代以降、都市近郊に進出しており（植田 2005 など）、練馬区でも 1991 年に繁殖が確認（遠藤ら 1991）されるなど、今後の動向が注目される。アオバズクは、区内での生息場所が非常に限られているため、その保全が重要な課題になると考えられる。

アオゲラも区内の複数の大規模樹林で確認した。すべてで定着しているわけではないが、各地を一時的にも利用している様子が伺えた。

冬鳥のヤマシギもまとまった樹林環境を好む種であり、都立光が丘公園や都立石神井公園で確認した。

②冬鳥や旅鳥が多い

秋から翌年の春まで生息する冬鳥が多いのが特徴であり、今回の調査で確認した種の半数近くがこれにあたる。

これは市街地に共通の特徴であるが、ハイタカやノスリ、ハヤブサなど複数の猛禽類や、ヤマシギ、トラツグミといった、市街地では希少な種も含まれていることが練馬区の特徴といえる。都立光が丘公園や都立石神井公園に代表される大規模樹林が存在していることが、これらの冬鳥に越冬場所を提供していると考えられる。

春や秋に区内を通過していく、いわゆる旅鳥の割合も多いのが特徴である。これも市街地に共通の特徴であるが、その種類が多い。小規模の樹林でもキビタキやセンダイムシクイなどが確認されており、特に石神井川沿いの樹林地で確認した。区内全域でこれらの旅鳥が通過していると考えられる。

③水鳥や草地性の種が少ない

区内の池沼である都立石神井公園や都立光が丘公園には、サギ類やカモ類、クイナ類などが見られるが、種数や個体数は限定的である。コチドリやツルシギ、クサシギ、コアジサシといった種が記録されているが、渡り途中の限定的な記録である。

石神井川や白子川についても、コサギやカルガモ、コガモなど限られた種の利用に限られている。

オオヨシキリ、ホオジロといった高茎草地を選好する種は、渡り途中に立ち寄るか、極少数が生息しているだけであった。また、ヒバリやセッカといった種は、全く確認できなかった。

区内の草地が少なく、また現在も減少傾向にあることから、これら草地に多く見られる種の生息は難しい状況であると考えられる。

④外来種の存在

ワカケホンセイインコが区内に定着している様子が把握された。一部では屋敷林で繁殖している可能性がある。

なお、特定外来生物であるガビチョウやソウシチョウは確認されなかった。ソウシチョウは、隣接する武蔵野市では確認されていることから、今後の動向にも注意が必要である。

5. 哺乳類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。

このうち、個体の目視やフィールドサイン法^{※73}による調査は全ての調査地で行った。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての哺乳類相の評価ができるように調査地点以外の場所もふくめて踏査したため、集計は 26 箇所 7 ルートとした。

この他に主にネズミ類を対象とした捕獲罠による調査を、各エリアにある大規模樹林（コア緑地）および大規模緑地に順ずる面積の緑地（サブコア緑地）の計 8 箇所を対象として行った。

2) 調査時期および時間

現地調査は、平成 20 年度の冬期から平成 21 年度の秋期にかけて行われる鳥類調査や昆虫類調査の際に確認したものをまとめた。また、都立光が丘公園バードサンクチュアリにおける観察記録も含めた。

捕獲罠による調査は、平成 21 年 3 月に行った。

3) 調査手法

現地調査では、個体の目視およびフィールドサインの確認を行った。鳥類調査の際には 8～10 倍程度の双眼鏡を補助的に用いた。

捕獲罠による調査では、シャーマントラップ（写真参照）を林内に設置し、1 調査地につき連続した 2 晩実施した。

夜間のコウモリ類の調査では、補助的にバットディテクター^{※74}を用いた。



写真 ネズミ類調査に用いた調査に用いた
シャーマントラップ

※73 フィールドサイン法：調査対象地域を可能な限り詳細に踏査してフィールドサイン（糞や足跡、食痕、巣、爪痕、クマダナ、モグラ塚等の生息痕跡）を発見し、生息する動物種を確認する方法。

※74 バットディテクター：コウモリの超音波を可聴音（人間に聞こえる範囲の音）に変換する機械。

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種


①確認種

上記の調査により、4目5科5種（不明種含む）を確認した。これを表IV-5-1に示した。

②重要種

文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。国 RL の記載種の確認も無かった。都 RL の記載種は、アズマモグラ（留意種）が含まれていた。これを表IV-5-3に示した。

表IV-5-3 哺乳類の重要種確認状況

アズマモグラ(モグラ科) 都RL(区部):留意種(*)	
	確認地点:都立光が丘公園、八幡神社、都立石神井公園、東京カトリック神学院、MU氏邸、立野町ルート 確認状況:いずれもいわゆる「モグラ塚」を確認した。

③外来種

確認種のうち、外来種にあたるものは、ハクビシン1種であった。

2) 練馬区の哺乳類相の特徴

①貧弱な種構成

種の特定ができなかったネズミ類を含めて5種を確認した。この数値から市街地に典型的な貧弱な種構成であることが分かる。

②中型種の存在

中型の哺乳類であるタヌキとハクビシンを確認した。過去の調査結果がないために評価が難しいが、近年増加傾向にあると考えられる。今後、分布の拡大により、住宅地でのトラブルなどの発生が予想される。

③留意種・アズマモグラの存在

東京都 RL (区部) で「留意種」であるアズマモグラを大規模緑地や私有地、民有地などで確認した。留意種となった理由である生息地の孤立化が、区内でも起こっている可能性があることから、今後の分布について注目すべきと考える。

【参考文献】

- ・熊谷さとし (2001) : 哺乳類観察ブック 人類文化社.
- ・自然環境アセスメント研究会 編著 (1995) : 自然環境アセスメント技術マニュアル 財団法人自然環境研究センター.

表Ⅳ－５－１ 哺乳類の確認種一覧 (1/2)

目名	科名	種名および学名	Ⅰ 北町・田柄エリア						Ⅱ 豊玉・中村エリア					Ⅲ 石神井・関町エリア					
			I①	I②	I③	I④	I⑤	I⑧	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅱ③	Ⅱ④	Ⅱ⑤	Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸	都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	M O氏邸	石泉愛らんど
モグラ	モグラ	アズマモグラ <i>Mogera imaizumii</i>	●			●							●		●				
コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ <i>Pipistrellus abramus</i>	●										●						
ネズミ	ネズミ	ネズミの一種 <i>Rattus sp.</i>							●									●	
ネコ	イヌ	タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i>	**							○									
	ジャコウネコ	ハクビシン <i>Paguma larvata</i>								○									
4	5	5	3	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	2	0	1	0	0	1
			3						3					3					

表Ⅳ－５－１ 哺乳類の確認種一覧 (2/2)

種名および学名	Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							確認箇所数	重要種		備考
	Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		国R L	都R L・区部	
	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	M U氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	○氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域				
アズマモグラ <i>Mogera imaizumii</i>					●									●			6	*		
アブラコウモリ <i>Pipistrellus abramus</i>																●	3			
ネズミの一種 <i>Rattus sp.</i>																	2		ドブネズミ 又はクマネズミ	
タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i>																	2			
ハクビシン <i>Paguma larvata</i>					●					○							3		外来種	
5	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1		0	1	
2									3											

●: 通常調査での確認 ○: 現地でのヒアリングでの記録 **: 光が丘公園バードサンクチュアリでの観察記録

6. 爬虫類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての爬虫類相の評価ができるように調査地点以外の場所も含めて踏査したため、集計は 26 箇所 7 ルートとした。

2) 調査時期および時間

平成 20～22 年度に行われた各分類群の調査や、自然観察会の際に確認したものをまとめた。また、都立光が丘公園バードサンクチュアリにおける観察記録も含めた。

3) 調査手法

主に目視により、個体の確認を行った。鳥類調査の際には 8～10 倍程度の双眼鏡を補助的に用いた。なお、カメ類捕獲用の罟を区立武蔵関公園に設置した。

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種

①確認種

上記の調査の結果、2 目 7 科 13 種を確認した。これを表Ⅳ－6－1 に示した。最も確認箇所が多かったのは、ニホンカナヘビの 14 箇所、ついで、ニホントカゲの 12 箇所、ニホンヤモリの 10 箇所、ミシシippアカミミガメの 8 箇所であった。

調査場所別の種数では、都立石神井公園の 10 種が最も多く、次いで都立光が丘公園の 9 種であった。

②重要種

文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。国 RL の記載種の確認も無かった。

都 RL の記載種は、表Ⅳ－6－2 に示した 8 種が該当した。

③外来種

確認種のうち、外来種に該当する種は、ミシシippチズガメ、ニセチズガメ、ミシシippアカミミガメ、ワニガメの 4 種であった（表Ⅳ－6－3～4）。いずれの種も要注意外来生物であった。

表Ⅳ－６－１ 爬虫類の確認種一覧 (1/2)

目名	科名	種名および学名	Ⅰ 北町・田柄エリア					Ⅱ 豊玉・中村エリア					Ⅲ 石神井・関町エリア							
			Ⅰ①	Ⅰ②	Ⅰ③	Ⅰ④	Ⅰ⑤	Ⅰ⑧	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅱ③	Ⅱ④	Ⅱ⑤	Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸	都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	M O氏邸	石泉愛らんど	
カメ	ヌマガメ	クサガメ <i>Chinemys reevesii</i>	●											●						
		ミシシッピチズガメ <i>Gratemys kohnii</i>													○					
		ニセチズガメ <i>Gratemys pseudogeographica</i>													○					
		ニホンイシガメ <i>Mauremys japonica</i>	○												○					
		ミナミイシガメ <i>Mauremys mutica</i>													○					
		ミシシッピアカミミガメ <i>Trachemys scripta elegans</i>	●						●						●	●				
	カミツキガメ	ワニガメ <i>Macrochelys temminckii</i>													○					
	スッポン	ニホンスッポン <i>Pelodiscus sinensis</i>	**																	
トカゲ	ヤモリ	ニホンヤモリ <i>Gekko japonicus</i>	**	●	●	●		●	●			●	○							
	トカゲ	ニホントカゲ <i>Plestiodon japonicus</i>	●		●	●	●		●					●	○			●		
	カナヘビ	ニホンカナヘビ <i>Takydromus tachydromoides</i>	●			●			●	●				●		●		●		
	ナミヘビ	ヒバカリ <i>Amphiesma vibakari</i>	○											●	●					
		アオダイショウ <i>Elaphe climacophora</i>	●											○	●					
2	7	13	9	0	1	2	3	1	2	3	1	0	1	11	5	1	0	2	0	
			9					4					12							

表IV-6-1 爬虫類の確認種一覧 (2/2)




種名および学名	IV 大泉・土支田エリア									ルート							確認箇所数	重要種		備考
	IV①	IV②	IV③	IV④	IV⑤	IV⑥	IV⑦	IV⑧	IV⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		国	都	
	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	MU氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	O氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域		R	R・L	
クサガメ <i>Chinemys reevesii</i>																	2	DD		
ミシシッピチズガメ <i>Graptemys kohnii</i>																	1		要注意外来生物	
ニセチズガメ <i>Graptemys pseudogeographica</i>																	1		要注意外来生物	
ニホンイシガメ <i>Mauremys japonica</i>																	2	CR		
ミナミイシガメ <i>Mauremys mutica</i>																	1		国内外来種	
ミシシッピアカミミガメ <i>Trachemys scripta elegans</i>	●		●												●	●	8		要注意外来生物	
ワニガメ <i>Macrochelys temminckii</i>																	1		要注意外来生物	
ニホンスッポン <i>Pelodiscus sinensis</i>																	1	CR+EN		
ニホンヤモリ <i>Gekko japonicus</i>	●	●		●													11	VU		
ニホントカゲ <i>Plestiodon japonicus</i>		●		●										○			11	CR+EN		
ニホンカナヘビ <i>Takydromus tachydromoides</i>	●	●		●				●			●	●			●		14	VU		
ヒバカリ <i>Amphiesma vibakari</i>		●															4	VU		
アオダイショウ <i>Elaphe climacophora</i>		○	●														5	NT		
13	3	5	2	3	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	-	0	8	
	6									3							-	8		

●:現地調査での確認 ○:補足調査での確認 **:光が丘公園バードサンクチュアリでの観察記録

表Ⅳ－6－2 爬虫類の重要種確認状況 (1/2)

ニホンイシガメ(ヌマガメ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:光が丘公園では、平成21年11月にバードサンクチュアリに隣接する鑑賞池で確認した。
ニホンスッポン(スッポン科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:光が丘公園では、バードサンクチュアリ内の池で、平成22年5月に1個体を確認した。 (バードサンクチュアリの記録)
ニホントカゲ(トカゲ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)	
	確認地点:都立光が丘公園、八幡神社、U氏邸、高松市民農園、豊島園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、MO氏邸、稲荷山・清水山憩いの森、土支田八幡宮、立野町ルート 確認状況:各調査地で、1～数個体を確認した。
ニホンヤモリ(ヤモリ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園、どんぐり山憩いの森、八幡神社、U氏邸、武蔵学園、豊島園、N氏邸、都立石神井公園、都立大泉中央公園、稲荷山・清水山憩いの森、土支田八幡宮、立野町ルート 確認状況:各調査地で、1～数個体を確認した。
ニホンカナヘビ(カナヘビ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園、U氏邸、豊島園、廣徳寺・区立高稲荷公園、都立石神井公園、東京カトリック神学院、MO氏邸、都立大泉中央公園、稲荷山・清水山憩いの森、土支田八幡宮、区立びくに公園、城南住宅ルート、田柄川緑道ルート、土支田・谷原ルート 確認状況:区内では、比較的広範囲に生息していると考えられる。

表Ⅳ－６－２ 爬虫類の重要種確認状況 (2/2)

<p>ヒバカリ(ナミヘビ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、清水山憩いの森</p> <p>確認状況:光が丘公園では平成22年7月にバードサンクチュアリ内の池で、武蔵関公園では平成21年5月に葦の島で、石神井公園では平成21年6月に三宝寺池北の斜面で、それぞれ1個体を確認した。</p>
<p>アオダイショウ(ナミヘビ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、清水山憩いの森</p> <p>確認状況:石神井公園と清水山憩いの森では平成21年4月に、光が丘公園では保全樹林内で平成21年7月に1個体を確認した。武蔵関公園では、平成21年7月に、松の島で脱皮殻を確認した。</p>
<p>クサガメ(ヌマガメ科) 都RL(区部):情報不足(DD)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園</p> <p>確認状況:光が丘公園では、バードサンクチュアリの脇の鑑賞池で成体や幼体を、石神井公園では、平成21年5月に三宝寺池で成体を確認した。</p>

表Ⅳ－6－3 爬虫類の要注意外来生物 確認状況

ミシシッピチズガメ(ヌマガメ科) 環境省 要注意外来生物	
	確認地点: 都立石神井公園 確認状況: 平成22年5月に確認した。
ニセチズガメ(ヌマガメ科) 環境省 要注意外来生物	
	確認地点: 都立石神井公園 確認状況: 平成23年6月の自然観察会で捕獲・確認した。
ミシシッピアカミミガメ(ヌマガメ科) 環境省 要注意外来生物	
	確認地点: 都立光が丘公園、武蔵学園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、都立大泉中央公園、八の釜憩いの森、石神井川流域、白子川流域 確認状況: 各調査地で、1～数個体を確認した。
ワニガメ(カミツキガメ科) 環境省 要注意外来生物	
	確認地点: 区立武蔵関公園 確認状況: 平成23年3月、公園内の池で成体1個体が捕獲された。

表Ⅳ－６－４ 要注意外来生物にあたる４種について（爬虫類）

種名および学名	特徴ならびに近縁種・類似種	被害の実態・被害のおそれ
<p>ミシシッピ チズガメ <i>Graptemys kohnii</i> および ニセチズガメ <i>Graptemis pseudogeogra phica</i></p>	<p>両種とも雄よりも雌の方がずっと大きくなる。雌の場合、最大背甲長 25cm 程度に成長する。頸部に細かい黄色の縦条があるものが多い。</p> <p>日本在来の類似種はいない。雑食性で、水草の他、魚類、両生類、甲殻類、貝類、水生昆虫などを広く摂食する。</p>	<p>生態系に係る被害</p> <p>定着して高密度に生息するようになった場合、在来のカメ類と資源（例えば日光浴の場所や食物等）が重複し、またさまざまな動植物を摂食することから、定着地域では在来のカメ類や水生植物、魚類、両生類、甲殻類等に影響を及ぼす可能性がある。</p>
<p>ミシシッピ アカミミガメ <i>Trachemys scripta elegans</i></p>	<p>雄より雌の方が大型になる。雄は背甲長 20cm、雌は 28cm、2.5kg 程度まで成長し、在来のイシガメ（1kg 前後）やクサガメ（2kg 弱）に比して大型である。</p> <p>頭部の両脇に目立つ赤い斑が見られる。雄成体では不明瞭になることもある。日本在来の類似種はいない。</p>	<p>生態系に係る被害</p> <p>高密度に生息し、在来のカメ類と資源（例えば日光浴の場所や食物等）が重複し、またさまざまな動植物を摂食することから、定着地域では在来のカメ類や水生植物、魚類、両生類、甲殻類等に大きな影響を及ぼしていると想定される。</p> <p>最も大量に（年間数十万匹から 100 万匹）輸入されている爬虫類である。消耗品扱いされ、多数の個体が遺棄され、逸出しており、わが国で最も普通に見られるカメとなっている。</p>
<p>ワニガメ <i>Macrolemys temmincki</i></p>	<p>淡水産のカメ類としてはきわめて大きくなり、最大で背甲長 66cm、体重 80kg に達する。</p> <p>類似の種はないが、カミツキガメがやや似ている。</p>	<p>生態系に係る被害</p> <p>大型に成長し、魚類を中心にさまざまなものを捕食することから、もし定着すると魚類等に大きな影響が及ぶと想定される。</p> <p>人の生命又は身体に係る被害</p> <p>咬みつかれると大怪我をする可能性はあるが、カミツキガメと異なり待ち受け型の捕食行動をとるため、危険に遭遇する機会は少ないと考えられる。</p>

※環境省ウェブサイト (<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>) より

2) 重要種の保全

都 RL の絶滅危惧Ⅰ類以上である 3 種と、絶滅危惧Ⅱ類ではあるが確認箇所数が 4 箇所と少ないヒバカリを対象に考察する。

①ニホンイシガメ及びニホンスッポン（両種とも絶滅危惧Ⅰ類 CR+EN）

ニホンイシガメは都立光が丘公園と都立石神井公園で、ニホンスッポンは都立光が丘公園でのみ観察された。両種ともに個体数が少なく、同じ水域にはミシシippアカミミガメをはじめとした外来のカメ類が多数定着している。

個体数については、本調査では十分把握されていないため、今後の詳細な調査が望まれる。外来のカメ類との関係については、環境省によれば、一般的な外来のカメ類は、在来のカメ類と「日光浴の場所や食物等の資源が重複」することが懸念されており、この 2 種についても同様の問題が起こると考えられる。

一方で、これらの個体は人為的な放逐により生息・定着している可能性もある。

したがって、生息水域における外来カメ類の駆除が、最も効果的な保全対策であると考えられるが、現在の個体群そのものが人為的な起源である可能性にも留意する必要がある。

②ニホントカゲ（絶滅危惧Ⅰ類 CR+EN）

都 RL のカテゴリーは高いが、区内の 11 箇所で生息を確認した。本種には帰巢性があり、崖地のくぼみなどが長期間維持されている空間が必要となる。本調査で生息を確認した場所については、巣が作られる崖地を中心に、地表面の改変を控えることが望ましい。

③ヒバカリ（絶滅危惧Ⅱ類）

前述のニホントカゲとは逆に、都 RL のカテゴリーは低いですが、区内の 4 箇所でのみ生息を確認した。

本種は水辺を選好することから、区内でも生息する場所は限られる。また、それぞれの確認場所が離れていることから、個体の行き来も困難と考えられる。

したがって、本種の保全には、現在の生息空間の維持・保全が望まれる。具体的には、水辺空間をその後背の樹林地をセットで保全することが望ましい。

3) 練馬区の爬虫類相の特徴

①市街環境に典型的な種構成

調査により 13 種の爬虫類を確認した。構成種としては、ニホンヤモリやニホンカナヘビのような、市街環境にも適応している種や、外来種を含めたカメ類が多く、市街地に典型的な種構成であった。

②ヘビ類の存在

その中で比較的良好な自然環境を示す種として、アオダイショウやヒバカリのようなヘビ類も確認した。特にヒバカリは、水辺を好む小型のヘビ類であるが、区内 4 箇所で確認した。しかし、その他の種は確認できなかったことから、区内の爬虫類相は貧弱であるといわざるを得ない。

③外来カメ類の存在

今後注目される点としては、今回外来のカメ類を 4 種確認した。既存の文献（片岡ら 2007）では、カミツキガメをはじめ、その他にも複数の外来のカメ類が区内で確認されている。区内には都立石神井公園や区立武蔵関公園、都立光が丘公園などの池沼や石神井川や白子川などの河川が存在し、これらのカメ類が、種数・個体数ともに増加することが予想される。したがって、引き続きのモニタリングが重要と考える。

7. 両生類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての両生類相の評価ができるように調査地点以外の場所もふくめて踏査したため、集計は 26 箇所 7 ルートとした。

2) 調査時期および時間

平成 20～22 年度に行われた各分類群の調査や、自然観察会の際に確認したものをまとめた。また、都立光が丘公園バードサンクチュアリにおける観察記録も含めた。

3) 調査手法

目視および鳴き声により、個体および卵塊の確認を行った。鳥類調査の際には 8～10 倍程度の双眼鏡を補助的に用いた。

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種

①確認種

上記の調査の結果、1 目 4 科 7 種を確認した。これを表Ⅳ－7－1 に示した。

②重要種

文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。国 RL の記載種の確認も無かった。

都 RL の記載種は、表Ⅳ－7－2 に示した 6 種が該当した。

ただし、ヤマアカガエル、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエルについては、人為的に移入された可能性が高い（国内外来種）と考えられる。

表IV-7-1 両生類の確認種一覧 (1/2)

目名	科名	種名および学名	I 北町・田柄エリア						II 豊玉・中村エリア					III 石神井・関町エリア						
			I①	I②	I③	I④	I⑤	I⑧	II①	II②	II③	II④	II⑤	III①	III②	III③	III④	III⑤	III⑥	
			●						●	●	●			●	●					
カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル <i>Bufo japonicus formosus</i>												●						
	アマガエル	ニホンアマガエル <i>Hyla japonica</i>												●						
	アカガエル	ウシガエル <i>Rana catesbeiana</i>	●											●						
		ニホンアカガエル <i>Rana japonica</i>	●																	
		ヤマアカガエル <i>Rana ornativentris</i>													●					
		トウキョウダルマガエル <i>Rana porosa porosa</i>	●																	
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル <i>Rhacophorus schlegelii</i>	●											●						
1	4	7	5	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	5	1	0	0	0	0
			5						1					5						

表IV-7-1 両生類の確認種一覧 (2/2)


種名および学名	IV 大泉・土支田エリア									ルート							重要種 国 R L 都 R L・区部	備考		
	IV①	IV②	IV③	IV④	IV⑤	IV⑥	IV⑦	IV⑧	IV⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦			確認箇所数	
アズマヒキガエル <i>Bufo japonicus formosus</i>			●											●		●	9	NT		
ニホンアマガエル <i>Hyla japonica</i>	●		●		●		●										5	EN		
ウシガエル <i>Rana catesbeiana</i>																	2		特定外来生物	
ニホンアカガエル <i>Rana japonica</i>														●		●	3	EN		
ヤマアカガエル <i>Rana ornativentris</i>							●										2	—	国内外来種と考えられる	
トウキョウダルマガエル <i>Rana porosa porosa</i>														○			2	CR	国内外来種と考えられる	
シュレーゲルアオガエル <i>Rhacophorus schlegelii</i>																	2	CR	国内外来種と考えられる	
7	1	0	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	1	1	—	0	6
			3						—							—		6		

●: 通常調査での確認 ○: 補足調査での確認

表Ⅳ－7－2 両生類の重要種確認状況 (1/2)

ニホンアマガエル(アマガエル科) 都RL(区部):絶滅危惧IB類(EN)	
	確認地点:都立石神井公園、都立大泉中央公園、八の釜憩いの森、MU氏邸、区立びくに公園 確認状況:石神井公園では5月にひょうたん池周辺で、大泉中央公園では8月に、八の釜憩いの森では5～6月、八の釜憩いの森では5～7月、MU氏邸では7月に、いずれも鳴き声により確認した。
トウキョウダルマガエル(アカガエル科) 都RL(区部):絶滅危惧I類(CR+EN)	
	確認地点:都立光が丘公園、立野町ルート 確認状況:バードサンクチュアリ内の池で平成21年4～7月に鳴き声を確認した。来園者に放された個体と考えられる。任意調査では平成22年の初夏に立野町ルート内の区立立野公園の池で声を確認した。
ニホンアカガエル(アカガエル科) 都RL(区部):絶滅危惧IB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園、立野町ルート、石神井川流域 確認状況:光が丘公園では、水生昆虫誘致池で平成21年2月に卵塊を、立野町ルートでは、区立立野公園内の池で平成20年9月および平成21年5月に成体を、平成21年4月に幼生を確認した。
ヤマアカガエル(アカガエル科) 都RL(区部):非分布(-)	
	確認地点:都立石神井公園 確認状況:平成20年8月、野鳥誘致林内で確認した。人為的移入の可能性が高い。
シュレーゲルアオガエル(アオガエル科) 都RL(区部):絶滅危惧I類(CR+EN)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園 確認状況:光が丘公園ではバードサンクチュアリ内の池で、平成21年5月に、石神井公園では水辺観察園で、5～6月に声を確認した。人為的移入の可能性が高い。


表Ⅳ－７－２ 両生類の重要種確認状況 (2/2)

アズマヒキガエル(ヒキガエル科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:都立光が丘公園、武蔵学園、豊島園、廣徳寺、都立石神井公園、区立武蔵関公園、八の釜憩いの森、立野町ルート、白子川流域 確認状況:光が丘公園、石神井公園、武蔵関公園、立野町ルートの区立立野公園では卵塊や幼生を確認した。武蔵学園や廣徳寺では幼体や成体を林内で確認した。

③外来種

確認種のうち、外来種にあたるものは、ウシガエルが含まれていた。本種は特定外来生物である。

表Ⅳ－７－３ 両生類の特定外来生物 確認状況

ウシガエル(アカガエル科) 環境省 特定外来生物	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園 確認状況:光が丘公園ではバードサンクチュアリ内の池で、平成21年4～6月に姿と声を確認した。石神井公園では三宝寺池で5～6月に、石神井池で8月に鳴き声を確認した。

表Ⅳ－７－４ 特定外来生物 ウシガエルについて

種名および学名	特徴	備考
ウシガエル <i>Rana catesbeiana</i>	大型で極めて捕食性が強く、口に入る大きさであれば、ほとんどの動物が餌となる。日本のみならずアメリカ合衆国でも最大のカエルで、頭胴長 183mm に達する。水生傾向が強く、後肢の水かきはよく発達する。幼生も大型で、全長 150mm になる。貪欲な捕食者で、昆虫やザリガニの他、小型の哺乳類や鳥類、爬虫類、魚類までも捕食する。	食用として世界各地に導入され定着している(アメリカ合衆国西部、ヨーロッパ、西インド諸島、韓国など)。ヨーロッパ諸国、韓国などでは輸入が禁止されている。 年間に数万匹が実験目的に理学系、医療系などの大学、研究所を中心に利用されている。 IUCNの「世界の侵略的外来種ワースト 100」及び日本生態学会の「日本の侵略的外来種ワースト 100」に選定されている。

※環境省ウェブサイト (<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>) より

2) 繁殖状況

現地調査中に、卵塊や幼生を確認した種を以下にまとめる。

①アズマヒキガエル

- ・都立光が丘公園（バードサンクチュアリ、水生昆虫誘致池）
- ・都立石神井公園（三宝寺池）
- ・区立武蔵関公園（葦の島付近）
- ・立野町ルート（区立立野公園内の池）



アズマヒキガエルの卵塊
（都立光が丘公園水生昆虫誘致池
平成 21 年 2 月 21 日）

②ニホンアカガエル

- ・都立光が丘公園（水生昆虫誘致池）
- ・立野町ルート（区立立野公園内の池）

3) 重要種の保全

都 RL の絶滅危惧 I 類以上である 4 種のうち、人為的な放逐ではないと考えられるニホンアカガエルについて考察する。

①ニホンアマガエル（絶滅危惧 IB 類）

かつては区内全域に生息していたと考えられるが、本調査では 5 箇所のみ確認であった。個体数も各地点で 1 個体であり、区内では非常に孤立していることが伺える。

本種の生息には産卵場所となる浅い水域と、その周辺に樹林地や草地が必要であり、餌となる昆虫類などの小動物が豊富に生息することも必要である。これらの環境を維持しつつ、個体数の回復に注意していくことが望ましい。

4) 練馬区の両生類相の特徴

①国内移入種を含むが貧弱な種構成

今回の調査では 7 種を確認したが、このうち 3 種が国内移入と考えられた。また、1 種が特定外来生物であり、本来の生息種は 3 種のみであった。さらに、その本来の生息種のうちニホンアマガエルやニホンアカガエルは、生息箇所が非常に限られており、区内に広く生息しているのはアズマヒキガエル 1 種のみであった。

これらのことから、練馬区内の両生類相は非常に貧弱と言わざるを得ない。

8. 陸産貝類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての陸産貝類相の評価ができるように調査地点以外の場所もふくめて踏査したため、集計は 26 箇所 7 ルートとした。

2) 調査時期および時間

平成 20～22 年度に行われた各分類群の調査の際に確認したものをまとめた。

3) 調査手法

目視および落葉層などの探査により個体の確認を行った。その場で同定できないものについては、持ち帰り、同定を行った。同定は、千葉県立中央博物館の黒住耐二氏に協力いただいた。

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種

①確認種

上記の調査の結果、2 目 10 科 25 種（この他に不明種あり）を確認した。これを表Ⅳ－8－1 に示した。

②重要種

文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。国 RL の記載種の確認も無かった。

都 RL の記載種は、表Ⅳ－8－2 に示した 2 種が該当した。



表Ⅳ－８－１ 陸産貝類の確認種一覧（1/2）

目名	科名	種名および学名	Ⅰ 北町・田柄エリア						Ⅱ 豊玉・中村エリア					Ⅲ 石神井・関町エリア					
			Ⅰ ①	Ⅰ ②	Ⅰ ③	Ⅰ ④	Ⅰ ⑤	Ⅰ ⑧	Ⅱ ①	Ⅱ ②	Ⅱ ③	Ⅱ ④	Ⅱ ⑤	Ⅲ ①	Ⅲ ②	Ⅲ ③	Ⅲ ④	Ⅲ ⑤	Ⅲ ⑥
原始紐舌	アズキガイ	アズキガイ <i>Pupinella rufa</i>	●																
柄眼	スナガイ	スナガイ <i>Gastrocopta armigerella</i>											●						
	キセルガイ	ナミコギセル <i>Euphaedusa tau</i>																●	
	オカチョウジガイ (オカクチキレガイ)	オカチョウジガイ <i>Allopeas clavulinum</i>		●			●		●				●						●
		ホソオカチョウジ <i>Allopeas pyrgula</i>		●										●					
		サツマオカチョウジ <i>Allopeas satsumense</i>												●					
		トクサオカチョウジ <i>Paropeas achatinaceum</i>			●					●									●
		チョウジガイの一種		●					●										
	ナタネガイ	ナタネガイの一種 <i>Punctum sp. cf. amblygonum</i>																	
	コハクガイ	コハクガイ <i>Zonitoides arboreus</i>		●	●								●	●					
	ナメクジ	ナメクジ <i>Meghimatium bilineatum</i>											●	●					
	コウラナメクジ	チャコウラナメクジ <i>Lehmannia valentiana</i>		●					●	●		●		●					
		ノハラナメクジ <i>Deroceas laeve</i>																	
		コウラナメクジの一種		●															
	ベッコウマイマイ	カサキビ <i>Trochochlamys crenulata</i>												●	●				
		マルシタラガイ <i>Parasitala reinhardti</i>		●										●					
マルシタラ類																		●	
ハリマキビ <i>Parakaliella harimensis</i>										●									
ウラジロベッコウ <i>Urazirochlamys doenitzii</i>										●			●						
オナジマイマイ	ウスカワマイマイ <i>Acusta despecta</i>		●	●			●						●						
	オナジマイマイ <i>Bradybaena similaris</i>													●					
	ヒダリマキマイマイ <i>Euhadra quaestia</i>		●				●		●	●		●	●						
	ミスジマイマイ <i>Euhadra peliomphala</i>		●											●					
	エンスイマイマイ <i>Trishoplita conospira</i>												●						
	コオオベソマイマイ類の一種 <i>Aegista sp.</i>												●	●					
	—	不明貝類																	
2	11	25	6	6	2	0	2	1	2	6	1	1	1	10	11	0	0	4	0
			12						7					19					

表Ⅳ－８－１ 陸産貝類の確認種一覧 (2/2)

Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							確認箇所数	重要種		備考
Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	Ｒ①	Ｒ②	Ｒ③	Ｒ④	Ｒ⑤	Ｒ⑥	Ｒ⑦		国 Ｒ Ｌ	都 Ｒ Ｌ ・ 区 部	
																1		国内外来種	
●																2	*		
	●															2			
																5			
									●							3			
																1			
																3		外来種	
																2			
●																1			
●									●							6		外来種	
●	●		●			●							●			7			
●																6		外来種	
								●								1		外来種	
													●			2			
																2			
																2			
																1			
																1			
																2			
●							●	●								7			
●																2		外来種	
			●	●												9			
				●								●				4			
																1			
																2	NT		
			●								●					2			
7	2	0	3	2	0	1	1	2	2	0	1	1	2	0	0		0	2	
12									6								2		

表IV-8-2 重要種確認状況（陸産貝類）

コオオベソマイマイ類の一種(オナジマイマイ科) 都RL(区部): 準絶滅危惧(NT)	
	確認地点: 都立石神井公園、区立武蔵関公園 確認状況: 石神井公園では三宝寺池側の樹林で、武蔵関公園では「松の島」で採集した。 ※写真は下の個体
スナガイ(スナガイ科) 都RL(区部): データ無し ※本土部では留意種(*)	
	確認地点: 区立武蔵関公園、都立大泉中央公園 確認状況: 武蔵関公園では、松の島でコハクガイなどと一緒に多数採集された。大泉中央公園では、野鳥の森の枯れ木で多数確認した。

③外来種

確認種のうち、外来種にあたるのは、表IV-8-3に示した6種であった。このうち5種は国外外来種であるが、国外から侵入したのち、国内移動により区内に侵入したと考えられる。また、1種が国内移動によるもの（国内外来種）であった。

表IV-8-3 確認した外来種一覧（陸産貝類）

移動状況	科名	種名	確認場所
国外 外来種	オカチョウジガイ	トクサオカチョウジ	どんぐり山憩いの森、豊島園、MO氏邸
	コハクガイ	コハクガイ	都立城北中央公園、どんぐり山憩いの森、都立石神井公園、区立武蔵関公園、都立大泉中央公園、練馬駅周辺ルート
	ナメクジ	チャコウラナメクジ	都立城北中央公園、武蔵学園、豊島園、氷川神社、区立武蔵関公園、都立大泉中央公園
		ノハラナメクジ	土支田・谷原ルート
	オナジマイマイ	オナジマイマイ	区立武蔵関公園、都立大泉中央公園
国内 外来種	アズキガイ	アズキガイ	都立光が丘公園

2) 練馬区の陸産貝類相の特徴

限られた調査結果であるが、以下のような特徴があると考えられた。

- ・確認種の構成からは、市街地などに生息する種が多かった。
- ・ヒダリマキマイマイやミスジマイマイなど大型の種を確認した場所は注目される。
- ・いわゆる「里山」のような環境に生息する種は少なかったが、カサキビ、ウラジロベッコウなどを確認した。
- ・今回の陸産貝類の調査は、他の分類群の調査時に補足的に行ったため、十分に種の把握ができたとは言いがたい。また、一般的に、陸産貝類は小面積であっても、人為的な攪乱がなければ生息し続けることが可能だと考えられる。本調査の対象地以外でも、人の立ち入りのできない斜面林の下などには、希少な種が生息している可能性があり、今後の調査・研究が望まれる。